

令和4年度第1回北広島町環境審議会 議事録

日 時：令和4年11月21日（月）10：00～12：10

場 所：北広島町まちづくりセンター 多目的室

審議委員：出席 11名、欠席 1名

次 第

1. 開 会

（箕野町長）

皆さんおはようございます。

本日はご多忙のところご臨席いただき、ありがとうございます。

一言ご挨拶をさせていただきます。委員の皆様方には、それぞれのお立場で地域の自然環境や生活環境の保全にご支援をいただいていることに対しまして、心から感謝申し上げます。

本町におきましては、平成27年度に北広島町環境保全に関する条例を改正し、町民・事業者・行政が環境課題の解決に向けお互いに協力し合い、地域が育んできた森や清流、里山、田畑など恵み豊かな自然環境を次世代に継承する取り組みを進めるため、平成29年度には北広島町環境基本計画を策定いたしました。

そして、この度は地球規模での地球温暖化等の環境問題の解決を図るため、まずは本町の問題から取り組むこととし、北広島町ゼロカーボントウン推進計画（仮称）を策定することにいたしました。この計画を策定し進めることで、経済効果や地域課題解決など本町の活性化にも繋げてまいりたいと考えております。そのためには、町民の皆さんや企業の皆様のご理解、ご協力をいただき、連携した展開により実現するものだと思っております。

本日は初回の審議会となります。これから約5ヶ月間という短い期間ではありますが専門知識を発揮していただき地域課題をカーボンニュートラルの視点で解決するべく忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げます。

どうぞよろしく願いいたします。

2. 委員長選任

八林公平委員が選出

3. 諮 問

箕野町長が八林委員長に諮問書を手交

4. 議 事

(1) 自己紹介

(2) 北広島町ゼロカーボンタウン宣言について

(事務局より資料1説明)

(委員長)

こうした国の大きな旗ふりであつたり、世界的な二酸化炭素の増加に対して皆で取り組んでいきたいと思いますところの合意のもとですね、町としてもゼロカーボンを目指していきたくてございますので、それに対してどんな取り組みができるかというところで地域、産業、雇用などに繋がる政策をこれから考えていきたいと思います。既にいくつか取り組みとしてやっていますよ、というのを資料2で紹介していきますのでお願いいたします。

(2) 北広島町の地球温暖化に関する取組について

(事務局より資料2説明)

(委員長)

こうした取組を踏まえて計画づくりにかかる審議ということなんですが、本審議会に期待されている所など資料3で説明していただきたいとおもいます。

(3) 北広島町環境審議会について

(事務局より資料3説明)

(委員長)

はい、ありがとうございます。これまでの町の取組も踏まえて、町全体で温暖化対策を進めていくためのゼロカーボンタウン推進計画をまとめていきたいということでございます。今日はその方針について皆さんからご意見を伺っていきたくて思っております。

具体の政策については、現在、庁舎内で各課の若手の皆さんに集まっていただいて政策の検討を進めているところがございますので、具体の政策は次回の1月の素案の中で記される予定です。1月にご意見をいただいて、3月にとりまとめたいと思います。

なにか皆さんから、これまでの取り組みだとかゼロカーボンタウン宣言だとか基本的なことも含めてですね、ご質問の疑問点などございましたら何でもいただきたいと思っております。

(委員)

資料1の5ページですが、森林適正管理の推進とありますが、大朝地域に住んでいて木がすごく伐採されているんですね。そこをどのようにされるのかなって。植え替えられるのか、それとも太陽光発電にされるのかどうなのかな？ていう。大朝の特別養護老人ホームやすらぎから、ちょうど見える所の木がなくなってしまったんですよ。国道沿いなので、木を運ぶ車をよくみるんですよ。邑南町にもっていくのもあれば、邑南町か

ら運ばれてくるのもあったり、理由の一つとして、木材が外部から入ってこなくなった、輸入がされなくなったので伐採されているとも聞いたので、カーボンニュートラル事業に関係して伐採されているのかなと思ったんですが。

(委員長)

おそらく中国木材さんもあるので木の運搬車はよく御覧になるかと思います。森林伐採計画などに基づいて伐採されているかと思いますが、課題としては、切った後に植える再造林が全国的にも進んでいないという事があります。そのような現状があるのであれば推進していかなければならないとおもいます。ただ再造林が進まない原因があって、切ったあとはしばらく儲からない期間になってしまって、その間に山主さんが山に投資をしないために起きています。そこに対して、何らかの補助をするのか、他の方法でやっていくのか政策としてあがってくるのではないかと思います。

(事務局)

切られている木が、広葉樹なのか針葉樹なのかで目的は変わってくるのですが、広葉樹で切られている木は大体チップになっていると聞いています。チップといっても町内でエネルギーとして使われるものではなくて、主に町外の木質バイオマス発電の燃料で使われています。製材もあると思うのですが、なかなか町内で切られた木が町内で使われていないし、手入れがされてなくて荒れてしまっているところもあるので、そういったところをしっかりと手をかけていく、お金を投じていく、地域エネルギーをまわしていくといった仕組みが計画の中で書けたらいいなと思っております。

(委員長)

みなさん森林に関しては森に囲まれた町なので関心がおありなのかなと思いますが他に何かありますか？

(委員)

私も家の裏山に多少の山がありますが、そこも地元の方の方に切って頂いたんですが、私としては家の裏山なので広葉樹とか植えたいと思ったんですが、植えるのはスギ・ヒノキしかない、補助金もつかないからとのことで植えられませんでした。

森として使いたいとか、そういったところには針葉樹しか植えられないというのもどうなのかなって。そこらへんが持ち主の意思に反するというか自分の持ち物であるけど、自分の持ち物ではないような状況なのかなと思いました。

(委員長)

それは苗木が仕入れられないとの事なんですかね？

(委員)

そうではなく、国・県の政策が再造林の政策になって、広葉樹の拡大造林の方向がなくなってきたらいいんですけど。

その重要性を県にも問い合わせするのですが、なかなか復活しない。今の政策は柱材、建築材の生産を目的にしている、苗木も針葉樹しか補助の対象にならないので。悲

しいんですが、林業補助金なしでなりたたないので、そういう政策にのっていきしかない。広葉樹の植栽とかが全然進んでない状態です。

(委員長)

針広混交林とかはないんですか。

(委員)

それはあります。ただ針広混交林は今ある山を将来的に針広混交林にもっていこうという、また針広混交林に対する手厚い助成とかはないですから。

(委員長)

町としては天然林が多くて広葉樹が多くて、紅葉の景観がきれいな町だと思っているので、国・県補助として難しければ、なにか町として政策があるのかっていう。

(委員)

北広島町はほとんど広葉樹なので。県とかも現状がわかっても実施できない感じ。

(委員)

広葉樹は個人所有の土地なので、そんな大きな面積でもないような。だからそういう補助が大きくなればいいなど、全部そうなればとは思わないですけど。

(委員)

やっぱり切りっぱなしなんですよ。木材価格の変動によって変わるんですけど、やっぱり価格が低いんで、せっかく売った木を収入にしてまた山に戻していこうという所有者さんもない。そこは造林が進まず、切りっぱなしの状況が続くので悲しいです。

助成がないと復活できない状態なので、ただ広域である程度まとまってやるとか、我々も所有者らの土地を提供して、分取造林にもっていくとかの方向もあるんで。そういう限られた場所、規模でいくと、再生できる山はあるんですが、わずかな面積の森はそのままの状況になっている。

(委員長)

大朝とかは地権者が多いんですよね。それをまとめるというのがうまくいかないと聞くんですよね。

(委員)

共有林が多いんですよね。なかなか話が進まないんですよね。

(委員長)

ありがとうございます。何か他ありますか。

(委員)

千代田は広島市内から来た人は太鼓と庁舎の屋根が目印ですかね。屋根は太陽光発電ですよ。他の官公庁舎でこういった施設はありますか？

(委員長)

こういった形はみたことありません。表彰受けているくらいですから。かなりレアです。

(委員)

あんまり町の人が知らんじやろうと思うんですよ。庁舎の屋根を太陽光発電じゃと説明する人はおってんないですよ。アピールが足りんのんじゃないかと思いますね。風で吹っ飛んでいくんじゃないかと心配しています。あれはやっぱりアピールするべきだと思います。他に見たことないですね。どっかありますか。

(委員長)

いやこういう形は見たことなくて。普通は斜めに何列か並べてっていうのが普通のタイプですね。

(委員)

千代田がこんなことしよるんじや、というのを住民がしっとってないんですよ。以上です。

(委員)

各家に太陽光を設置すれば補助がでますよっていうのが、あまり知られてないのかなって。業者からは連絡くるんですが、やってないですか？って。家が保たないからってお断りしていたんですが。そうすると、二酸化炭素の削減にはならないよなって思いながら自宅にはしていないので。こういった補助がでるよって言うていただければ、また違うと思います。うちの近所には太陽光発電を設置している家が一件あるんですが、なかなかそこから広がってないです。まだ太陽光をする予定はないです。でも大朝でも空き地にはちょこちょこ見かけますね。住民にっていうのは、PRしたらもっと広がるんじゃないかな。補助金とかも重要だなと。そこらが大事なのかなって。

(委員長)

素案のなかでいろいろ政策が出てくると思うんですが、そうした普及啓発的な事についてはしっかり盛り込んで頂ければと思います。

(委員)

2050年をめざして計画していくとの事なんですが、その頃には74歳なんです。計画作りの中で、住民の中でたとえば高校生とか大学生とかに話とか、意見を聞くとか反映できるような事とか、関われる事とかは何か考えていらっしゃるのでしょうか？

(事務局)

今の所はないです。ただ計画策定に対して高校生とかと対話をしたりとかアンケートをとったりとかという自治体もありますので、そこは検討させてください。

(委員)

町づくりにかかわる事なので、関心が高い世代も増えてきているかなって、関わる所を増やして頂きたいと思います。

(委員長)

今回の計画策定後に、見直ししていく段階のどこかで若い人たちに意見を聞くことができたかなと思います。

(事務局)

庁舎内のWG会議の中でもそういう議論があつてですね。学校の授業の中でも取り組めないかという話がありまして。実際に教育委員会にも動いて頂いて、各校の先生にも時間がつくれませんか？と働きかけている所ではあります。

(委員長)

じゃあここでいったん区切らせて頂いて。またそれぞれの論点の審議の中で話しあいしていきたいとおもいます。資料4について説明をお願いします。

(3) 北広島町ゼロカーボントウン推進計画（仮称）について

(事務局より資料4説明)

(委員長)

この論点については、国が2030年、8年後なんですけど、2030年にはマイナス46%、二酸化炭素排出量のほぼ半減を目指すという目標をもっている中で、町として統制のとれた目標設定をしていくかどうか、あるいは、そこまでいきなりは積極的にいなくてもいいんじゃないか？との意見もあってもいいんじゃないか。当然、国の目標を目指すとなると、政策的にも町民の皆様にも色々のご協力頂く事がででくるんじゃないかと思えます。

そういったことを踏まえて町として積極的な政策になるかについてご意見頂ければと思います。大きな方針でもありますので、懸念などもあればご意見ください。

(委員)

私は産業の方ですね、今までの取り組みの中でも産業に対しての部分が見えてこない。北広島町での工業製品出荷が、統計を覚えていないんですが大体1500~1600億円あります。隣の安芸太田が約40億円ですから規模が全然違うんですね。

そのことを踏まえて資料を見させていただくと、本町では資料4の10頁、産業の部分を取り組まないと、各家庭の排出は全体の4%ぐらいしかないんです。そのところを一生懸命削減しても、全体としてはどうなんだな、国と比べてこの同等の削減を地域として実施するのもちょっと無理があるかなと。北広島町は産業に特化して産業で生きてきた町なんで。その部分をやめちゃうとかいうなら、ある程度達成できるでしょうけども。

それがない限りは、地元に進出しておられる企業さんにも積極的にこれ参画してもらって、計画作りにも入っていただくということが必要ではないかと感じております。

(委員長)

非常に重要なご意見だとおもいます。なにかありますか？

(委員)

県北で言えば庄原市、三次市、安芸高田市、北広島町、安芸太田町、商工会の支部の中でも県北領域は北広島町の工業出荷額が多いと言われていて、これまでもそれぞれの企業が千代田地域に来られているんですが、それがあって今の町の人口や比較的若い人の働く場があって、人口が維持できていて千代田地域が中心になっているんだと思います。個別の大きな排出量事業者についても、おそらく工場団地内の大規模な工場が中心になるだろうと思います。そういう大きな会社がある地域では、環境問題への取り組みは、中小零細とは違って、かなりしっかりしたものを持っておられると思います。ただ規模に対して、大きな排出削減は簡単に変えることはできないと思います。

やっぱり事業の発展と環境の維持推進の両方をやっていかないといけないし、どちらかを抑制するのは難しいだろうと。やっぱり企業は常に1%増、ずっとそれを目指していて、併せて排出量を減らしていく意識を持つこと、そのバランスの難しさはどんな大きな会社でもテーマになっています。我々、中小企業はこれからスタートということにはなってきています。

町民の皆さんの取り組みで気になるのが、CO₂の削減には非常に我慢しなくちゃいけない感じとして捉えています。便利な生活を我慢して、快適さを我慢して、我慢の連続のような感じがあってはなかなか進まないと思います。そこにさっき河野さんが言ったモンペルなど楽しい取組がなければ、我慢だけではもたないなと思います。

2050年までは時間があるけど、何から始めていけばいいというところも町民の皆さんに、あるいは企業に知らせしていくことが必要で、今は話題性がない。具体的なCO₂の削減量、目標ですよ。今のところは難しく想像がつかない。どういう事なのかわからない状態でありますよね。以上です。

(委員長)

ありがとうございます。

そうですね、従来ですと、いろんな稼働時間を抑えて、設備も減らして、我慢して家の中では服を着込んで電気の使用を抑える、燃料の使用を抑える、そういう発想だったかなと。そこに再生可能エネルギーという、まるごと変えていく転換していくような技術ができたり、あるいは生産プロセスを抜本的に変えるようなものが出てきたり。化石由来のガスの代わりにバイオガスを用いるとか、こうしたものをうまく使うことで、目標達成ができていくんじゃないのかなと思います。こうした産業に対して影響が出る、雇用に対してマイナスの影響が出てくるといって指摘は、当然懸念としてありかなと思うんですね。一方で、いち早く町の政策で、脱炭素に転換していくことができると逆にそれが強みに変わっていくということがあるわけですね。先般も町内の自動車部品メーカーさんがマツダさんとEVの部品を開発するという話題がありましたが、かなり大きなお金を投じていくと、やっぱりそこに投資が集まっていくことが起こり得る。そうした脱炭素の取り組みはプラスの面もあるので、地域経済の耐久性を高める意味でも、その政策と打ち込みっていうのはやっていく必要があると思う次第です。

(委員)

あの昔、東京都知事の石原慎太郎がですね、車の廃ガス中のススがばらまかれているという話をしたことがあったじゃないですか？温室効果ガスと排ガスは同じなんですかね？

(委員長)

あの黒いススとはまた別ですね。

(委員)

あれは車ですか？

(委員長)

車ですね。

(委員)

農林水産業の二酸化炭素がものすごい突出しているじゃないですか。これは何が原因なんですか？これが突出しとるよね。これを辞めさせたらいいんじゃないんでしょうか？

(事務局)

農家に聞いて回ってるわけじゃないんですが、ハウスの空調であるとかですね、そういったときにボイラーを焚いたりしますので、そこの排出も結構あるんじゃないかなと思っています。

(委員)

ものすごい大きいよ。

(事務局)

全国平均の排出量が低いのでそういう数字になってますけども。

(委員)

どうやって計算しよるん？

(事務局)

国の統計調査をもとに排出量を出して農業人口で案分してるんですね。

(委員)

これを減らすのにはどうしたらいいん？

(事務局)

例えば今、化石燃料である灯油とか重油を燃やしてボイラーを焚いているのを、木質バイオマスのボイラーに転換するとかバイオマス由来のガスの燃料に替えていくとか。

(委員)

それはわかる。よその町と比較して、うちの町はなんでこんなに多いのかなと思って。よそはしよらんってこと？

(事務局)

よそでもしてますけど、全国の平均で調べたらうちの町が多い。逆にいったら農業が盛んだっていう意味でもあります。

(委員)

魚とかもいっぱいあるよ。

(事務局)

そうなんですけど、県と全国で比較していますから。

(委員)

北広島町が突出しているデータが正しいがわからんよ。北広島町以外がどのくらいな
んかが知りたいよね。

(事務局)

北広島町以外の。例えばどこですか？

(委員)

たとえば世羅町とか。坂町とかと比較しても仕方ないんよね？

(事務局)

そうですね。広島市などの都市部も平均するとうちの町が多いとなるんですよ。

(委員)

それはわかるんじやが。これは減らすんが一番てっとり早い気がするよね。

(委員)

農業分野の排出量は、トラクター、コンバインそれで使う軽油なんかがすごい。年間
何千リッターって使う。2000くらいかな。

(委員)

じゃけ、農業が盛んって事ですか？そこは何とかせんといけんですね。

(委員長)

製造業と農業ではグラフの単位の桁が違いますよね。産業は10. 20. 30と。全
体の中で比べると産業部門が多いですよ。これはおそらく都道府県でもっているCO
2排出量からの生産規模だったりを案分して計算方法があるんですね。計算根拠はまた
今度参考までにお知らせしますので。

(委員)

昔、車に排出ガスなんかあったよね。53年ぐらいから？排出ガス業者とか。あれ
はトラクターとかはできんのんですかね？

(委員)

もう今対応したエンジンじゃないと発売できんようになってる。

(委員)

そうですね。じゃあ今使いよる車は適合車ですか？

(委員)

いやいや、そうとも限らんですよ。そのかわりトラクターがかなり値上がりしとりま
す。

(委員)

なんかええ方法がないかね？

(委員)

それができるなら自動車も苦勞してないですよ。

(委員)

わかりました。

(委員長)

なにか目標設定についてご意見は。

(委員)

シナリオ1っていうのは何もしていない場合のことでしょうか？

(事務局)

何もしていない訳じゃなくて取組の程度としては一番弱シナリオですね。

(委員)

特になにも決めなくてなにかあるんですか？シナリオ2があるので。そういう訳ではない？

(事務局)

そうですね。具体的にエネルギー効率を何%改善した場合っていうような設定の仕方があるんですけど。

(委員)

それがシナリオ2ですか？

(事務局)

そうですね、一番強い削減の取り組みをする場合、中間の場合と、ほとんど取り組みをしない場合っていう比較ですね。

(委員)

この部分を決めなければならない。

(事務局)

国の目標に合わせるのであれば、少なくともシナリオ3以上の取り組みをしなければなかなか達成できない。

(委員)

これは民間がやる努力と、行政の努力もあると思うんですけど、そこはちょっとどういうふうに捉えて考えればよいですか。

(事務局)

行政として、やっていかないといけないところもあると思うんですけども、先ほど来話があるように、工業の分野から排出される二酸化炭素の削減が一番やっぱり効果がありますので、そこをいかに削減していくか、その取り組みを促進していくかっていうところが大事だと思っています。あんまり二酸化炭素を削減してください、削減してくださいっていうよりは、企業にとってもメリットの話で、例えば高騰する電気代を抑えられるとか、生産性を上げられるとか、そういう転換を支援する補助メニューが沢山準備されていますので、その点を話をしっかりと行政が営業して回って、削減につなげていくことが大事かなと思っています。

(委員長)

事業者は企業任せではないということです。

(事務局)

そうですね、そこはしっかりと事業者の取り組みをフォローしていくことを計画の中に明記をして、企業に対して、町がこの設備を入れてくださってというのは経営判断もあり難しいですが、そこをやろうと思ってる企業をサポートしていく体制をとることが大事かなと思っております。

(委員長)

他にご意見はよろしいですか。

この目標設定については、そこに何か生産規模の抑制みたいなものが出てきてしまうと、政策との見合いが出てくると思うんですよね。町としても何か政策を打つと、無理なく産業界の皆様でも出来ることもあると思うんですよね。ですので、次回政策を含めた計画素案をご提示頂く際に、国の目標を考慮してここまでやりますとか、財政も兼ね合いもあるので政策を沢山打つのが難しいという判断があれば控えめな目標でやりますっていう、2パターンくらいあると決めやすいのかなと思います。

そんな感じですね。ちょっと論点1はこのくらいにして時間もないので論点2くらいまでは事務局から説明をお願いします。

(事務局より論点2説明)

(委員長)

はい。ありがとうございました。高い目標を掲げて再生可能エネルギーを入れていきたいと思います時に、土砂災害に繋がってしまうと、景観も悪くなってしまうというのは往々にしてあるところでもあります。皆様の普段の生活の中で、そしてもし懸念されている点があればですね、身近な話題でもかまいませんので、何かお知らせいただきますとですね、ありがたいです。

(委員)

はい、風力発電でホットな情報なのでちょっと気になったんですけど、私達が住む芸北の八幡高原は島根側に風力発電の計画が進んでいてですね、今朝聞いたんですけど新浜田ウィンドファームは八幡から見える所には作らないっていう、減らすっていうことをやるっていうのを聞いて、ただその代わり島根側のところにもっと大型のものを作るっていうような判断をしたっていうのも聞いたんですけど。

やっぱり何かやろうと思ったら大型化大型化で発電量を増やすっていう傾向になると思うんですけど景観も大事ですし、電力も大事なんですけど、やっぱり地域の方がどういうふうに分かってるかっていうのを、導入のポテンシャルっていう地図もあるんですけど地域の中でちゃんと話ができるような場所を作るのは大事なんじゃないかなと感じてい

ます。ここに建つからこうしよう、じゃなくてそもそも何か地域の中で変化が起こるときに、どう対応するかっていうところきちんともっておかないといけないんじゃないかなって思っています。そういうサポートとか情報提供とか役場や事業者にしっかりしてほしいなと思ったところです。

(委員長)

ありがとうございます。大変貴重なご意見です。

再生可能エネルギー事業をやっているところの事業者さん側と、後から声をかけられる住民側はものすごい情報の非対称性があるんですね、計画が進んでからは何も言えないので、そういったことが生じないように、いい形で共存していければなと思うんです。例えば地域の出資ができたね、とか地域に利益が生まれたっていう形はいいのかなと、それでいい関係性が築けるようにしていくことが重要だと思います。

(委員)

観光業が本業でして、北広島町によくお客様が来られていて、ここは赤い瓦じゃないですか。やっぱり石州瓦の文化があって屋根の上に太陽光を乗せると、やはり赤瓦の景観はなくなるんですね。何でもかんでも乗せればいいってもんじゃないし、わたしは赤瓦の景観は守りたいなと思っていて。農村風景とか里山の景色は全部だめとかではなくて、このエリアとかでとかそういった形でも残してほしいなと思っています。

まだインバウンドは少なくなってますけど、外国から来た人もそういった景観などに触れると感動する。それも一つの北広島町の文化ですので。

(委員長)

ありがとうございます。

(委員)

できれば赤瓦を乗せてほしいですね。新築に。

(委員長)

じゃあ赤瓦にずっと太陽光を乗せられないのか。どうやったら乗せられるのかとかね、代替りのものを検討してみたいですね。うちは絶対無理なんです。残念です。とかはね。

(委員)

基本的なことをしらののですが、この薪ストーブとかはCO2がでるんですか？

今回の計画は石油関係の燃やすものを減らしたいんですよね？薪ストーブならええとか言うんですが、薪ストーブしたら廃ガスは出ないんですか？

(委員長)

薪ストーブを含めて、物を燃やせばCO2がでていますが、薪の場合は木が育つ段階でCO2を先に吸収しているのので、燃やしても空気中の二酸化炭素の増加はないよという、実質ゼロの扱いとなっているんです。

(委員)

一番問題は石油に関する燃料が問題ですか。水素とかはええわけですか、水素ガスとかあるじゃないですか。

(委員長)

水素の精製方法については、多大なエネルギーをかけて作られるため、そこに化石燃料が使われるケースもあります。そこが今、国の方で大きな論点になってるところでして、どういった水素を使うかってのはまた将来的な話ですかね。

(委員)

今バイオ燃料ですか。廃油でつくつとる。あれはええんですか？

(委員長)

バイオディーゼル燃料（BDF）ですか。廃食油を使ったやつですね。あれも使ってもCO2を排出しない扱いで整理されています。

(委員)

そこらへんわからんですね。わかりました。

(委員長)

どこからどこまでの排出を計算するかで違うんと思うんですけど。

(委員)

石油関係以外のものを作らんといけんのんじゃないかね。

(委員長)

他には何か。

(委員)

太陽光の話なんですけど、先ほど赤瓦の景観が悪くなるとのことで聞いたんですが、今、太陽光自体、売電のものが多いですよね。各個人がやりよる。もっと中電の方がちょっとよくなったらもっと普及するんじゃないかと思っています。うちはちょっと日当たりが悪いところなんですけど、最近のパネルは結構いいらしいと聞きますよね。蓄電式のものができればとおもつとるんですけど、そういったのがでてくるのかどうか、そういうのは聞いていませんので。そういうものができればええなと思っています。

(委員長)

すごくいい意見ですね。太陽光と蓄電池をセットできるものですね。

政策の中でもうすでに検討されているかもしれませんが、喜んでいただける施策になると思います。

他はよろしいですか。はい、時間も減ってしまいましたが、またそういった懸念点については早急に検討が必要だと思います。論点3について、5～10分でございますがよろしく申し上げます。

(事務局より論点3説明)

(委員長)

ありがとうございます。地域エネルギー会社というのは電力小売り以外にも、先程の家庭の電気をまとめて仕入れますとか、オフィスとか家で太陽光乗せたいんだけどできるかね？等の相談も気軽にできる事業もできるかなと思います。設備を入れるときに、いきなりメーカーさんに連絡してしまうと、それしか選べなくなってしまうので。こうした団体があると、太陽光発電じゃなくてエコキュートのほうがいいんじゃないですか、とか色々な提案がしていける組織になると思います。この団体は、今回ゼロカーボンの推進にあたって、核となると感じています。

具体的設計、どういった業務内容をやっていくっていうのは、当然これからですけども、こんなこともできるだろうとか質問があればですね、お知らせいただいて、今日は基本的にはこういったことをやっていきたいと思います、という説明の機会と考えています。この地域エネルギー会社は、結構他でもやられているところもありますよね。鳥取とか京都、千葉とかでもいくつかできております。一つの政策の目玉だなと思いますので読んでいただいて、またいろいろ次回もよろしくお願いします。

(4) その他

(委員長)

すいません最後駆け足になってしまいましたが、非常に盛りだくさんな内容でゼロカーボンなじみじゃない方にとってはものすごい量だったかなと言う感じでした。皆さん大体ご発言頂きまして、一言ずつと思いましたが、あまり時間がありませんので。オプザーバーの皆様から何かございましたらご発言頂きたいのですが。

(環境省中四国地方環境事務所)

地域脱炭素を進めていく上で住民の方々、みなさんに参加して頂いた上で具体的な取組を考えて頂けることと環境省としましても心よりお礼申し上げます。冒頭、町長からご案内がありました通り、脱炭素とは地域の活性化に繋がりたい、その機会であると考えています。その中で、大きなところとしては産業部門、製造業において非常に大きな温室効果ガスの排出があり、どうしていけばいいのか課題だと思えます。

ひとつには、産業部門でどのようなことを考えているのか、この地域の中で先ほどこの会議に参加したほうがいいんじゃないかというご意見がありましたが、まさに意思疎通をしながら、そういったところと共生を図っていくという意味では非常にいい機会じゃないかと思うんですね。全国的にも非常に珍しくて、ここには事業量の5倍の再生可能エネルギーのポテンシャルがある中で、それをどう使いながらその産業部門と良い取組につなげるかを考えるいい機会ではないかなと思います。したがって、ぜひ、そこも踏まえながら、地域活性化に向けて具体的にお考え頂ければと思います。

(委員長)

ありがとうございます。環境省さん、たくさん補助金も持っていますので、ぜひ使っていただき、選んでいただけるよう教えていただければと思います。

長くなりましたが、第1回目は以上でございます。第2回は1月でございますが、1月のときにはですね少し素案という形で、細かい政策の一つですが、できるだけ事前に資料を確認していただいた上でご参加いただきたいと思います。よろしくお願ひします。お疲れ様でした。ありがとうございました。

以上